

差出人： メールニュース／b-active 株式会社
件名： 【セルフ・キャリアドック情報 –No.024–】

※本メールは、b-active にメールマガジン配信のご登録をいただいた方、協会の講習会にご参加の方、および名刺交換をさせて頂いた人事の方や企業分野のキャリアコンサルタントの方にお送りしております。もしも、ご意向に沿わない場合など「配信停止」をご希望される方は、お手数ですが最下段の「★配信停止をご希望の方はこちら」からお願いいたします。

メールニュース会員 各位

みなさんこんにちは！キャリアコンサルタントの植村格明（うえむらまさあき）です。「企業分野」でキャリアコンサルティング活動をされる方々のサポート機能として、少しでもみなさまのお役に立てればと思います。

【セルフ・キャリアドック情報】

新型コロナウイルスへの「緊急事態宣言」が長引く中、多くの制限の中での生活を強いられているのではとお察しします。14日には一部の特別警戒都道府県を除いて「緊急事態宣言が解除」されましたが、まだまだ感染拡大の不安は続きそうです。

いわゆる3密を避けるために、多くの方がリモートワーク（在宅勤務）を余儀なくされていると思いますが、一方で、最初は戸惑いがあったものの徐々に慣れてきて、通勤移動を伴わない働き方の効果や効率を感じる方も多いのではなでしょうか。

特に、セルフ・キャリアドック・プロジェクトに参加しているキャリアコンサルタントの意見としては、「この働き方は実は生産性が上がる」「時間が効率的に使える」「ワークに対してライフの時間も取りやすい」「飲み会もオンラインで楽しんでいる」など前向き。

やはりキャリアコンサルタントとして自律的なキャリア形成、働き方を積極的に実践されている方々だからこそですね。日々働く方のキャリア形成や開発を支援する経験と自己研鑽の蓄積が、主体的に変化に対応できる原動力なのでしょう。

しかしながら反対に、リモートワークに馴染めない方や否定的に捉えてしまう方も多いと感じます。「職場と違うと集中力が続かない」「周囲に確認したいのにチャットは不便」「働く居場所が無くなる感じ」「孤立感から不安ばかり」などのストレスに。

そのような中 14 日、日経新聞夕刊の「ダウンゴ・在宅勤務、コロナ後も」という記事では、1,000 名の全社員が 7 月以降は基本在宅勤務に。理由は生産性向上です。また Twitter も期限を設けず在宅勤務を認める方針だそうです。

働き方改革のリモートワーク推進が、新型コロナウイルス対策によって否応なしに実施されましたが、実は今後は経営者の方針次第で、継続実施か廃止かに分かれてくるのではないのでしょうか。東日本大震災計画停電後の節電行動と同様に。

今後リモートワークを、例えば「月に 5 日間実施」など新たな働き方として導入した場合に、その制度を生産性の向上に繋げる最大のポイントは、まさに「働く方の自律的な働き方と、キャリア形成の支援体制」でありキャリアコンサルタントの役割です。

そして、新型コロナウイルス対策が長期戦になることが明確であり、非接触（タッチレス）が「新たな日常」のキーワードといわれる中、「オンライン・セルフキャリアドック」という新しいシステム構築も、企業ニーズに応える一つの選択肢であると思います。

みなさまも働く現場において、「元の日常」ではなく「新たな日常」に向けてのチャレンジはいかがでしょうか？ ご意見いただければ幸いです。

——— キャリアコンサルタント国家資格【更新講習】受講をご検討のみなさまへ ———

【技能更新講習】セルフ・キャリアドック「ワークショップ実践」コース（6 時間）は 6 月 20 日（土）

【技能更新講習】セルフ・キャリアドック「面談実践」コース（6 時間）は 6 月 21 日（日）に連続開催します。

お申込みは b-active ホームページ <https://www.b-active.co/lecture> でお待ちしております。

☆最後まで読んでいただき、本当にありがとうございます。

一人ひとりの「働きがい」「生きがい」と共に / すべては対話から

b-active 株式会社 www.b-active.co

Copyright© 2020 b-active Inc.